

| | | | | | | |
|-------------------|---|--|--|---------|-------------|---|
| 科目名・科目番号 (026341) | | 教員名 椎名 清和 | 学科等 | 社会福祉・選択 | 履修年次 | 4 |
| 社会福祉特講IV | | | 曜日・時限等 | 集中・半期 | 単位数 | 2 |
| | | | オフィスアワー | 木曜日・3時限 | B 2 1 7 研究室 | |
| 授業概要 とねらい | 本科目は、社会福祉士としての視点の持ち方について考察することをねらいとします。そのため、日本社会福祉士会が生涯研修制度において使用していた書籍を教科書として使用します。専門職としての知識や価値が身についているかどうかを討論・演習で確認しながら、どのような社会福祉士になりたいのかを考察していきます。 | | | | | |
| 到達目標 | ①社会福祉士に必要な視点を自らが理解する。 ②社会福祉士に必要な視点を他者に対して具体例をあげながら説明できる。 ③社会福祉士に必要な視点をもとに、どのように実践を展開していけばよいのかを考察できる。 | | | | | |
| 準備学習 | 教科書を精読し、授業日(12/21、12/22、12/25、12/26)までに不明な用語等についてマーキングしておくこと。 | | | | | |
| 授業計画 | 回 | 授業内容 | 行動目標 | | | |
| | 1 | オリエンテーション | 『授業計画(シラバス)』を用いて授業概要や実施方法を理解する。 | | | |
| | 2 | 権利擁護(1) | 法的側面から社会福祉における権利を理解する。 社会福祉士のアイデンティティについて、権利擁護の点から考察する。 | | | |
| | 3 | 権利擁護(2) | 事例をもとに、自己決定とエンパワメントについて理解を深める。 ソーシャル・アクションについて事例をもとに考察する。 | | | |
| | 4 | 生活構造(1) | 社会福祉士に必要とされる生活をとらえる視点について整理する。 生活問題と福祉ニーズについて考察する。 | | | |
| | 5 | 生活構造(2) | 自立観の変遷を理解し、自立生活支援の基本的視点を整理する。 ソーシャル・インクルージョンやジェンダーの視点から生活をとらえる。 | | | |
| | 6 | 相談援助(1) | ソーシャルワークに関する最新理論にどのような理論があるのかを整理する。 | | | |
| | 7 | 相談援助(2) | ソーシャルワーカーが相談援助活動により果たす機能を整理する。 多職種との連携について、事例をもとに考察する。 | | | |
| | 8 | 相談援助(3) | 相談援助活動を実践するための種々のアプローチについて整理する。 相談援助の技法に関して、面接技法を中心に再確認する。 | | | |
| | 9 | 地域支援(1) | 地方分権と規制緩和とが、地域社会に与えた影響を理解する。 地域福祉への住民参加をどのように支援したらよいのかを考察する。 | | | |
| | 10 | 地域支援(2) | コミュニティソーシャルワークの展開方法やシステムを理解する。 地域包括支援センターにおける社会福祉士の役割を理解する。 | | | |
| | 11 | 地域支援(3) | 地域福祉計画と分野別の福祉計画の関係を整理する。 社会福祉士が地域福利計画等の策定に参加することの意味を考察する。 | | | |
| | 12 | 福祉経営(1) | 経営的視点からだけではない、福祉理念に基づく総合的なマネジメント(福祉経営)のあり方を理解する。 | | | |
| | 13 | 福祉経営(2) | 利用者中心の経営をするために必要な、事業評価および苦情解決について理解する。 | | | |
| | 14 | 実践研究 | 援助の意義や成果を第三者に客観的に説明することの意味を説明できる。 | | | |
| 15 | まとめ | 社会福祉士に必要とされる視点について、他の専門職の倫理綱領等を参考にしながらグループ討議をおこなう。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | レポート(100%)で評価します。再試験は実施しない。 | | | | | |
| 教科書 | 書名 新 社会福祉援助の共通基盤 第2版(上) 新 社会福祉援助の共通基盤 第2版(下) | 著者 社団法人日本社会福祉士会 | 発行所 中央法規 | | | |
| 参考図書 | 書名 適宜、紹介する。 | 著者 | 発行所 | | | |
| 教員からのメッセージ | 社会福祉国家試験への現役合格を考えている学生の参加を望みます。 日々の主体的で継続的な学習こそが、力の源、そして将来へのスプリングボード(跳躍台)になります。 | | | | | |